

今週（11月14日から11月18日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み最終日を跨ぐ週となった。積みの最終局面を迎えた14日は、先週の流れを引き継いで軟調な展開となり、無担保コールO/N加重平均レートは先週末より低い▲0.053%となった。15日はマクロ加算残高分の最終調整と思われるビッドが、大手行、地銀、証券、外銀といった幅広い業態から入り、運用一巡後はビッドサイドが取り残る展開となったため、加重平均レートは14日より上昇し、▲0.046%となった。16日は積み始めということもあって様子見姿勢が強く、ビッドは若干引き気味であった。17日も引続き様子見姿勢が強かったものの、証券業態から数千億円規模の試し取りが入ったため、加重平均レートは上昇した。週末の18日も様子見姿勢が続く中、試し取りが見られなかったことから、加重平均レートは17日から低下した。ターム物については、積み始めということもあり、地銀からの積極的な運用もなく、ビッドサイドも様子見姿勢が強いことで、目立った動きはなかった。

固定金利方式の共通担保オペは、17日に2W・8,000億円でおファーされ、落札額は1,510億円（期落ち額1,400億円）となった。

また、17日には、9月の政策決定会合で導入された、固定利回り方式の国債買入オペ（指値オペ）が初めて実施された。このところの中短期ゾーンの急激な金利上昇に対し、金融調節方針と整合的なイールドカーブを形成するために実施されたもので、対象は2年債と5年債であった。買入利回りが両方とも実勢より高い水準であったため、応札はなかった。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.10～▲0.085%程度での取引が中心となった。16日から新積み期に入り、投資家の資金調達ニーズが減退したため、全体的に売り物が少なく、14日から16日にかけては▲0.10～▲0.085%程度の低いレートで推移した。17日のS/N(11/21-22)は▲0.09～▲0.085%程度の出合いとなった。短国TB1Y物・TB3M物、20Yの発行日が重なっていたものの、資金運用ニーズが厚く、レート上昇は限定的であった。18日のS/N(11/22-24)は国債・短国買入オペが通知されたことで売り物が減少し、▲0.10～▲0.095%程度の出合いまで低下した。

SCIは個別銘柄では5y125～129、10y336～344、30y48～52、40y9などのカレント銘柄近辺にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、先週の米国大統領選挙以来、債券相場が軟調に推移する中、一部海外勢の動きも見られたものの、総じて様子見姿勢が強く、動意に乏しいマーケットとなった。

新発の入札は、16日に1Y物、17日に3M物が実施された。1Y物の入札は、平均落札利回▲0.2749%、按分落札利回▲0.2500%と、軟調な債券相場を反映して前回債から大幅に上昇した。しかし、セカンダリーではオペを睨んでか一時▲0.38%程度まで買い込まれる展開となった。3M物の入札は、WI取引で海外勢の需要からか、▲0.3%と強めの水準で取引が見られる中、入札結果は平均落札利回▲0.2891%、按分落札利回▲0.2716%と堅調であった。セカンダリーは▲0.29～▲0.28%と小動きであった。

短国買入オペは18日に市場予想通り1兆5,000億円でオファーされた。引け値の低い1Y物を中心に応札されたと見られ、平均落札利回較差+0.040%、按分落札利回較差+0.039%の結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、先週以来金融市場が全体的にボラタイルな展開となる中、特段の影響も無く、落ち着いた動きに終結した。CP発行市場は3,000億円強の償還に対し、鉄鋼・商社・小売業態などから大型案件が実施され、4,500億円程度の発行となった。市場残高は14兆円強程度で推移しており、先週から目立った変動は見られていない。発行レートは、引き続き玉確保ニーズが強く、a-1格相当銘柄で0%近辺となっていた。

15日に3,000億円で実施されたCP等買入オペは、発行残高が多い複数の銘柄が買入対象にならなかったことも影響し、平均落札利回▲0.002%、按分落札利回▲0.005%と、いずれも9月27日実施のオペ以来の低水準での決着となった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/14 (月)	17,672.62	△ 0.020	107.50	△ 0.053	△ 0.091	3,139,400
11/15 (火)	17,668.15	0.000	107.90	△ 0.046	△ 0.088	3,162,100
11/16 (水)	17,862.21	0.015	109.00	△ 0.048	△ 0.089	3,161,900
11/17 (木)	17,862.63	0.005	109.15	△ 0.045	△ 0.097	3,137,900
11/18 (金)	17,967.41	0.035	110.60	△ 0.049	△ 0.088	3,153,100

## 来週（11月21日から11月25日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
11/21 (月)	埼玉県金融経済懇談会にて政井審議委員講演 10月の貿易統計(財務省 8:50)				
11/22 (火)		流動性供給 5,000億円 11/25発行	交付税借入 10,500億円 12/2借入		10月の米中古住宅販売
11/23 (水)	勤労感謝の日				10月の米新築一戸建て販売件数 10月の米耐久財新規受注
11/24 (木)	9月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)	TB3M 44,000億円 11/28発行			New York祝日(Thanksgiving Day)
11/25 (金)	11月都区部・10月全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 10月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)	40Y 5,000億円 11/29発行			7-9月期の英GDP改定値

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
11/21 (月)	▲ 500	▲ 33,600	▲ 34,100	全店共通 CP買入 国債補充	▲ 1,400 ▲ 500	1,500 300	▲ 100	▲ 34,200	TB3M発行▲44000償還36200 TB1Y発行▲25000償還12800 20Y発行▲11000 エネルギー対策借入▲5000期日5000
11/22 (火)	▲ 2,000	2,000	0	国債買入 短国買入		11,200 15,000	26,200	26,200	
11/23 (水)	勤労感謝の日								
11/24 (木)	▲ 4,000	1,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	
11/25 (金)	▲ 2,000	▲ 5,000	▲ 7,000	社債買入		1,000	1,000	▲ 6,000	流動性供給▲5000 国有林野借入▲700 預保借入期日1000
週間合計	▲ 8,500	▲ 35,600	▲ 44,100	—	▲ 1,900	29,000	27,100	▲ 17,000	

11/21は日銀予想、11/22以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、資金余剰地合いが続いており、無担保コールO/N加重平均レートは引き続き▲0.05%前後での推移が見込まれる。

短国市場は、24日に3M物の入札が実施予定となっている。短国買入オペが12月に向けて減少すると見られる中、堅固な地合いが継続するかどうか注目される。

CP市場は、25日にCP等買入オペが3,500億円オファーされる予定となっており、オペレートの低下が続くかどうか注目される。

主要なイベントとしては25日の10月の全国CPI、7-9月期の英国GDP改定値などが挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入